

## 「暑い夏の思い出」

第12組 極善寺 最上 庸子

私の住む土岐市は、日本一暑いと全国に名を売る多治見市の隣です。今年は6月からグングン気温が上がり、それが38℃、39℃となり、先が思いやられると思った矢先に25年間頑張ってくれたお風呂の給湯器が突然壊れました。新しくなった給湯器は、流暢な日本語で優しく美しい声で「お湯が沸きました」と知らせてくれ、便利だなと感心します。

先日、用事で行かせる時、住職の車で一緒に行きました。住職の車は新型車です。高速道路を走った時、ハンドルのボタンを押すと、なんと車が自動で走ります。車線の中心を外れない様に、スピードも車が自動で判断します。その車についてる「ナビゲーション」と言えば信じられません。私の声で、行先を言えば、道路地図を画面が示し、言葉と絵で私を案内してくれます。便利すぎてこれからどうなるか心配します。

車のナビは、私の行く道を案内する阿弥陀様です。私が子供時代は、東京まで汽車で半日かかりました。今では新幹線で名古屋から1時間40分です。これから出来る予定のリニア中央新幹線は40分で行けるそうです。

便利になるとはどういう事かと考えますと、給湯器も車も電車も早く楽に行けるという事です。私達が一生追い求め、それがやがて幸せに繋がると信じて今日まで進んで来ましたが、親鸞様が自分の考えで進むとこんなはずではなかったという処に辿りつくまでと教えてくださる通り、この便利さと背中合わせに、生きにくさを感じるのは私だけでしょうか。

家でも、親が子供にかける言葉の一番が「早く、早く」。子供だけでなく、老人にも早さを求めます。結果は、便利さと引き換えに、人間から余裕を寛容さを奪いました。

野田風雪先生の「急ぐな、ゆっくり廻り道して来たらいい」との優しい言葉が思い出されます。